



写真1 桜田門(高麗門)

近隣史跡の紹介

桜田門

桜田門(さくらだもん)は、当初は小田原街道の始点として、小田原口と呼ばれていましたが、寛永13年(1636年)に改築し、桜田門と呼ばれるようになりました。外側の高麗門(こうらいもん)と内側の渡櫓門(わたりやぐらもん)の二重構造になっています。それぞれの門の間に枳形(ますがた)と呼ばれる四角形の広場(約38m×27m)があり、防御性の高い城門とされ、現存している城門の中では最も広い規模を有しています。

大正12年(1923年)に関東大震災で破損した後復元され、昭和36年(1961年)には「旧江戸城外桜田門」として国の重要文化財に指定されています。

安政7年(1860年)にはこの門の近くで水戸藩浪士らによる大老井伊直弼の暗殺事件(桜田門外の変)が起きました。

将軍継嗣問題や「安政の大獄」への不満の高まりから、水戸浪士17人と薩摩藩士1人が彦根藩の行列を襲撃し、藩主であった直弼を暗殺しました。

この日(新暦3月24日)は明け方から季節外れの雪模様で、辺りは真っ白であったと伝えられています。映画や小説等でもおなじみの場面が想像されます。

桜田門の正面には、現在警視庁の庁舎があります。この事から警視庁は別名で「桜田門」と呼ばれることもあります。

参考文献

(一社)千代田区観光協会

URL <http://www.kanko-chiyoda.jp/>

環境省 皇居外苑

<https://www.env.go.jp/garden/kokyogaien/>



写真2 枳形と渡櫓門

